



水屋神社に入る道の反対側には赤い桶がモニュメントとして置かれており、ここが「赤桶」という地名だと一目で分かるものでした。道中には多くの看板がありましたが、それらは全てボランティアの皆さんが作られたとお聞きし、様々な工夫をされている様子に感じました。

ウォーキング後、道の駅の一角で杵と臼を使用した餅つきを体験させていただきました。夕食会では、地元団体「飯N e !!」の方と子供達と、地元で作られた食材を使用した鍋と炭で焼いた地元の鶏、そして松阪牛を頂きました。

宮前地区では子供達と一緒に楽しむことを大切にしており、今回も地元のお子さんたち

に声をかけ、この夕食会を実現させたそうです。食事中に宮前地区の地域づくり団体「宮前良処会」「SAN さん会」「赤桶やったる会」の活動動画を見せていただきましたが、どれも子供たちが楽しそうに笑いながら参加している姿が映っていました。最初は子供たちを参加させるのにかなり苦労をされたそうですが、まず親を説得し、親を参加させることで、自然とお子さんも来るようになったとのことです。多くの団体が跡継ぎがない悩みを抱えている中、こうした子供たちを巻き込んだ活動はとても素晴らしいことだと思いました。

松阪市では、企業に地元食材を売り込み「地域づくりの日」を決め、売上げの何%かを地元の地域づくり資金に充てているそうです。町の方には、普段の買い物に「地域づくり」を支援しているという価値をつけ、企業には、宣伝効果も期待できるということで、地域づくりに良い循環を生んでいるとのことでした。このように、地域の人を巻き込み循環させる方法ができれば、少しずつでも地域は良くなっていくのではないかと思います。

花の窟神社では、NPO 法人有馬の村という団体の取り組みに触れる機会をいただき、同法人は、活性化施設「お網茶屋」の管理・運営を中心に、古代米をはじめとする地域資源を活用した特産品の開発など、様々な観点から、来訪者へのおもてなしを実践していました。「お網茶屋」では、花の窟神社に隣接し、古代米を使用したうどんや団子の提供、お土産品や名産品の販売、花の窟神社に関する資料展示、周辺の観光案内等が行われており、地域観光の拠点となっている様子でした。これらの活動等により、花の窟神社への来訪者数は年々増加しているとのことでした。

続いて訪れた飛鳥地区では、飛鳥地区地域まちづくり協議会の取り組みの紹介を受けました。人口減少、高齢化という問題に直面し、地域の活気が失われていく現状に憂いと危機感を持ち、地域住民が主体となったまちづくりを行うことを目的として会を立ち上げたとのことでした。古くから盛んであった野菜の生産を核として、高齢者の生きがい対策や休耕地の活用等に取り組む他、方言辞書の作成や古代米を使った田んぼアートなど、様々な事業を行っていましたが、会員の方は「地域活性化に寄与しているか分からない」と話されており、農村地域での地域づくりの難しさを感じました。しかし、2013年からは、



地域で農家民泊を始めた方ができたとのことであり、今後仲間を増やして民泊のメッカを目指したいとの意気込みが語られました。飛鳥地区では、新種の柑橘類である「新姫」の収穫体験や、名物の高菜を使った「めはり寿司」作り体験など、多くの体験をさせていただき、農村地域ならではの住民の一体感を感じることができました。

今回訪れた熊野市では、世界遺産である熊野古道や花の窟神社を核として地域づくりに取り組んでいましたが、核となる資源の賑わいをいかに全体に波及させるかが課題のようでした。県内においても、人口減少や高齢化により同じような課題、悩みを抱える地域は多いものと思われます。飛鳥地区地域まちづくり協議会の話のとおり、今回の研修交流会で体験させていただいた全ての活動を地域活性化に直結させることは難しいと思いますが、同じような悩みを抱える地域の取り組みを体験できたことは、今後の地域づくり活動に大変参考になるものだと感じました。

最後に、観光名所である赤木城跡と千枚田の見学に朝6時30分出発という大変早くから企画していただくなど、事務局の方のおもてなし精神は大変見習うべきものであったと思います。今後の事務局運営においてぜひ参考にしたいと思います。



第19分科会 熊野市
豊かな自然と歴史の中で人がかがやくまち 熊野
 ~市民が主役、地域が主体のまちづくり~
 群馬県地域づくり協議会事務局 青木 文聡

第19分科会が開催された熊野市は、世界遺産熊野古道（紀伊山地の霊場と参詣道）や日本最古の祭祀遺跡の一つと言われる花の窟（いわや）神社に代表されるように、歴史と文化が脈々と受け継がれており、各地でこれらの歴史や、自然を生かした地域づくり活動が

行われていました。熊野古道「松本峠」ウォーキング、古い造りの商家や民家が多く残る木本地区のまち歩きでは、ボランティアガイドの方々に丁寧に案内をいただき、地域が主体となって取り組んでいる様子を伺うことができました。